

県立守山高校屋内運動場増築に伴う  
**金森東遺跡発掘調査報告書**

1988.3

滋賀県教育委員会

滋賀県文化財保護協会

## 序

滋賀県教育委員会では活力のある県民社会、生きがいのある生活を築くための一つとして、文化環境づくりにとりくんでいます。そうした中で文化財の保存と活用を図る施策のうち、開発に伴う埋蔵文化財も重要な課題となっております。

先人の遺してくれた文化財は、現代を生きる我々のみならず子々孫々に至る貴重な宝でもあります。このような大切な文化遺産を破壊することなく、後世に引き継いでいくためには、広く県民の方々の文化財に対する深いご理解とご協力を得なければなりません。

ここに県立守山高校屋内運動場増築工事に伴う事前発掘調査の成果を取りまとめましたので、ご高覧のうえ今後の埋蔵文化財保護のご理解に役立てていただければ幸いです。

最後に、発掘調査の円滑な実施にご理解とご協力を頂きました、地元の方々並びに関係機関に対して厚く感謝の意を表します。

昭和63年3月

滋賀県教育委員会

教育長 飯田 志農夫

## 例　　言

1. 本書は、県立守山高校屋内運動場増築工事に伴う守山市守山町所在金森東遺跡の発掘調査報告書で昭和62年度に発掘調査し、整理したものである。
2. 本調査は、滋賀県教育委員会事務局総務課長の依頼により、滋賀県教育委員会を調査主体とし、財団法人滋賀県文化財保護協会を調査機関として実施した。
3. 本書で使用した方位は磁針方位に基づき、高さについては東京湾の平均海面を基準としている。
4. 本事業の事務局は次の通りである。

滋賀県教育委員会 文化部 文化財保護課

課長　服部　正

課長補佐　田口　宇一郎

埋蔵文化財係長　林　博通

埋蔵文化財係主任技師　用田　政晴

管理係主任主事　山出　隆

財団法人 滋賀県文化財保護協会

理事長　吉崎　貞一

事務局長　中島　良一

埋蔵文化財課長　近藤　滋

同課調査二係長　大橋　信弥

同課調査二係技師　清水　尚

同技師　仲川　靖

総務課長　山下　弘

総務課主事　西田　博之

6. 本書の執筆および編集は仲川 靖が担当した。

7. 出土遺物、写真、図面については滋賀県教育委員会で保管している。

## 目 次

### 序 文

### 例 言

1.はじめに.....	2
2.調査の結果.....	2
a.層位.....	2
b.遺構.....	2
c.遺物.....	7
3.まとめ.....	8

### 挿図目次

第1図 調査地および周辺遺跡分布図.....	1
第2図 トレンチ位置図.....	3
第3図 遺構平面図.....	5
第4図 SD02土層観察図 .....	5
第5図 SD02埋跡平面図・立面図 .....	6
第6図 周辺古地割図.....	9

### 図版目次

図版1. (上) 調査前全景 (下) 遺構全景	
図版2. (上) SD02 (下) SD02埋跡	
図版3. (上) 青磁・白磁碗 (下) 潘戸・美濃焼系天目茶碗	
図版4. (上) 信楽焼甕・摺鉢 (下)須恵器 (古墳後期～奈良時代)	



第1図 調査地および周辺遺跡分布図 (S=1/25,000)

- |           |           |            |           |
|-----------|-----------|------------|-----------|
| 1. 金森東遺跡  | 11. 古高遺跡  | 21. 焰魔堂西古墳 | 31. 薬師堂遺跡 |
| 2. 吉身西遺跡  | 12. 吉身中遺跡 | 22. 焰魔堂城跡  | 32. 赤野井遺跡 |
| 3. 下之郷遺跡  | 13. 粧源寺遺跡 | 23. 石田三宅遺跡 | 33. 杉江東遺跡 |
| 4. 正福寺遺跡  | 14. 東門院遺跡 | 24. 三宅北遺跡  | 34. 欲賀遺跡  |
| 5. 三津川遺跡  | 15. 薬師堂遺跡 | 25. 大門遺跡   | 35. 欲賀寺遺跡 |
| 6. 阿弥陀寺遺跡 | 16. 激眼寺遺跡 | 26. 三宅城跡   | 36. 冬塚古墳  |
| 7. 中島遺跡   | 17. 女天神古墳 | 27. 横江遺跡   | 37. 欲賀城跡  |
| 8. 金ヶ森西遺跡 | 18. 本像寺遺跡 | 28. 下長遺跡   | 38. 欲賀南遺跡 |
| 9. 金ヶ森城跡  | 19. 勝部城跡  | 29. 幸田塚古墳  | 39. 長東館遺跡 |
| 10. 金ヶ森遺跡 | 20. 焰魔堂遺跡 | 30. 松塚古墳   | 40. 中堂遺跡  |

## 1. はじめに

金森東遺跡はJR守山駅の北方約1km附近に位置する。今回、県立守山高校の屋内運動場増築工事に伴い発掘調査を実施した。

金森東遺跡は宅地造成に先立つ調査で昭和57年に新たに確認された遺跡で守山町から金森町にまたがる広大な遺跡である。昭和59年の守山市教育委員会の調査では、守山高校のグランド西に隣接した地で、弥生時代後期から6世紀前半にかけての竪穴住居44棟、倉11棟の他多数の構、土坑を検出している。その隣接地での継続調査では、新たに竪穴住居12棟の他、土壙墓4基、方形周溝墓15基を検出している。<sup>①</sup>

また、当該地の北東部に所在する県立成人病センター一帯に広がる吉身西遺跡では、弥生時代後期から古墳時代後期にかけての竪穴住居、掘立柱建物と弥生時代後期から古墳時代前期にかけての方形周溝墓、方・円墳が検出されている。<sup>②</sup>

今回の調査地点は、これら両遺跡の接点に位置する所で、金森東遺跡の東端、吉身西遺跡の南端にあたる。また、調査地の南西20mの地点には、近世灌がい用水の三津川遺跡が流れる。

## 2. 調査の結果

### a. 層位

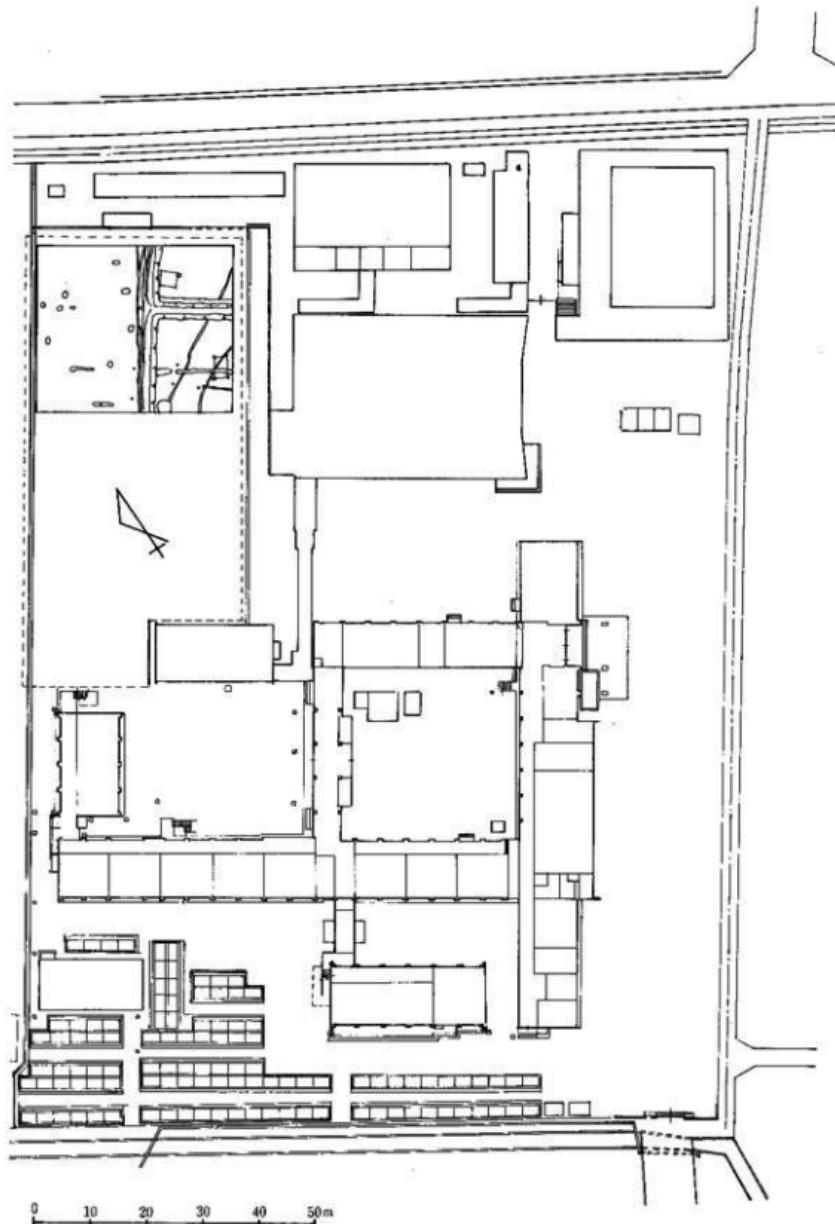
平均的に観察される層位は、第1層・山砂、第2層・耕土（旧田面）、第3層・黄褐色粘質土（床上）、第4層・灰褐色粘質土および黄灰褐色粘性砂質土（マンガンを含む）、第5層・灰色粘土および青灰色粘土で、遺構は第4層上面で形成されており、いわゆる遺物包含層は遺存しなかった。遺構の基本的な埋土は、SD01、SB01の柱穴、SK01、SK02が暗茶褐色粘性砂質土で、その他の遺構はSD02を除いてすべてが白灰色粘性砂質土である。遺構検出面は平均標高約94.6mの平坦地をなす。

### b. 遺構

検出した遺構は、掘立柱建物2棟、土坑11基、大溝1条、近世用水路1条である。

#### (1) 掘立柱建物

SB01 トレンチ北東隅に位置する1間四方の建物で、柱穴は径0.2m前後、深さ約



第2図 トレンチ位置図

0.2m前後を測る。柱間は東西2.8m、南北2.5mを測る。N-45°-Eの方向をとる。

SB02 トレンチ南東に位置する1間四方の建物で、SD01埋没後に建てられたものである。柱穴は径0.3~0.5m、深さ0.2~0.3mを測る。柱間は、東西2.2~2.4m、南北3.8mを測る。N-27°-Eの方向をとる。SD02とはほぼ同一方向をとる。

#### (2) 土 坑

SK01、02は埋土が暗茶褐色粘性砂質土で、SK03~11までが白灰色粘性砂質土である。SK11以外は、いずれも1.0~1.5m前後の隋円形もしくは不定形の掘形で、深さ0.3~0.5mを測る。SK11は2.0m四方深さ0.3mを測るもので、SK03~11には埋土に若干の土師器片を包含する。

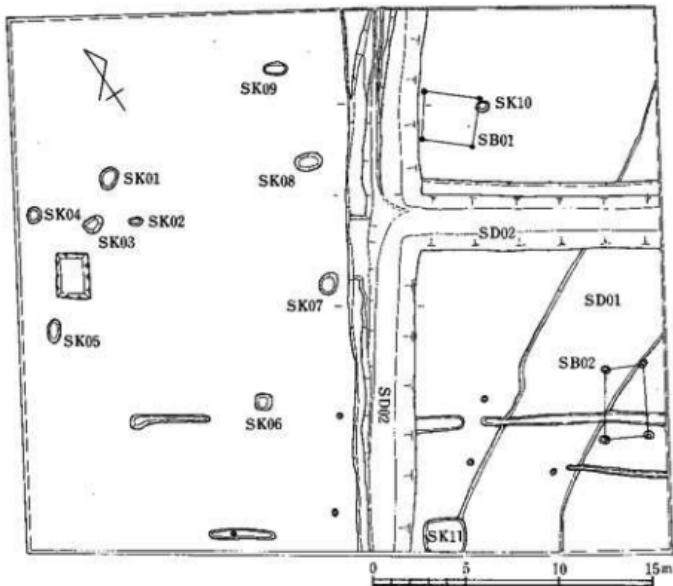
#### (3) 大 溝

SD01 トレンチ南東部を北東から南西方向に流れる幅約5.0~6.0m、深さ0.1~0.2mを測る。溝は、北東部でやや広がり、南西部で南にやや曲がる傾向をみる。埋土は暗茶褐色粘性砂質土1層のみで、遺物は南で若干出土したが磨耗が著しく時期は不明である。

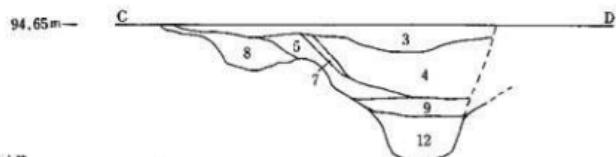
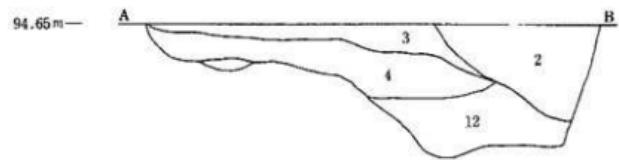
#### (4) 近世水路

SD02 トレンチ中央部を北東から南西へ継断する溝で、中程で直角に西南方向へ折れる溝が接続する。幅3.0~4.0m、深さ0.7~0.9mを測る。溝の方位はN-30°-E前後の方向をとる。いずれも、上層部は、テニスコート造成の際、排水用の暗渠に利用しており、こぶし大の礫が敷きつめられている。水路は概ね、3期にわたり、第1期の埋没後2期めの水路をやや東に広げており、同時に東西方向の溝も拡張している。3期めから、第2期の水路の埋没後、新たに杭、矢板を打ち改築している。3期めの水路は、守山高校開校時まで機能していた新しい水路で、2期の水路は昭和初期頃のもの、初期のものは、それ以前である。初期の水路の上限は不明である。溝の構造はU字状の掘形をもつ素掘りで、東西方向の溝が合流する地点で、柳溜め状に広げ、杭と板を用いて堰を設けている。これより北側の水路は、やや高くなつており一端貯水した後、堰により東西溝に分水し、堰からの余水を北に流す調節機能を持たせている。

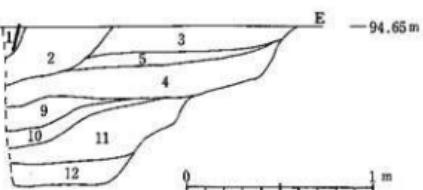
堰の構造は、水路の西肩に0.3~0.4m間隔で径0.1m前後の丸太杭を打ち並べ、東西溝の合流点より南1.0mの地点より約20度東へ振る方向に0.5mの間隔で2列に丸太杭、丸竹を打っている。横板は先端部の西側の列のみに2段程遺存しており、杭ではさみ



第3図 造構平面図

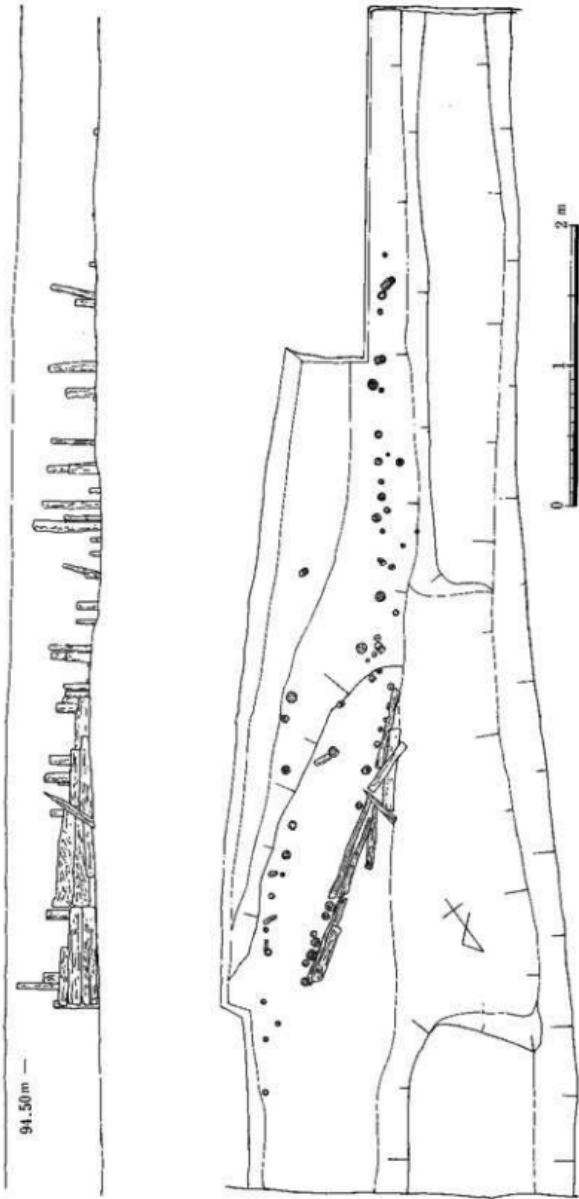


1. 明和30年代の水路
2. 黒灰色粘性砂質土 (昭和初期までの水路)
3. 白灰茶色砂質土 (ややシルト質)
4. 深茶色粘性砂質土 (遺物包含層、マンゴン含む)
5. 深茶色粘性砂質土 (やや4より灰色っぽい)
6. 白灰色砂礫土
7. 白色砂
8. 明灰茶色粘性砂質土
9. 増民茶色粘性砂質土
10. 灰色粘質土
11. しま状堆積の砂層 (遺物包含層)
12. 青灰色粘性砂質土 (やや砂っぽい、遺物包含層)



第4図 SD02 土層観察図

第5圖 SD02 掘進平面圖・立面圖



固定している。板、丸太ともに表面が焼けて炭化している。(第5図)

遺物は主に最下層と、2期めの水路の下層から多く出土しており、信楽焼の甕、鉢が最も多く、古墳時代の須恵器、瀬戸系陶磁器、青磁、白磁の陶磁器がそれに次いで多いが、すべて流出してきたもので、遺構の上限は確定し得なかった。

#### c. 遺 物

出土遺物のほとんどは、SD02の水路埋土より出土したもので、須恵器、信楽焼、青磁、白磁、瀬戸系陶磁器、伊万里系磁器に大別できる。

須恵器は、すべてローリングを受けており流出してきたものである。古墳時代後期の7世紀第2四半期代の杯、はそう、甕と、杯に高台がとりつく7世紀第4四半期代のものと高台が口縁の立ち上がる屈曲部につく奈良時代中期までのものに限定される。胎土はいずれも良好で、色は灰色を呈している。(図版4)

信楽焼は、N字状の口縁をもつ甕と摺鉢の2種類で、摺鉢は、内面におろし目を施さないものと、4～5条のおろし目を数条施すだけの15～16世紀代のものと全面に施す新しいものがある。胎土は長石粒の多い粘土で、色は赤橙色および灰褐色を呈する。(図版4)

青磁は、すべて碗で4点出土した。いずれも国産のもので、半陶明の淡青緑色の釉薬が施された鎬蓮弁を有する碗と内面に花弁文を施したもの、ややすくすんだ緑茶色系の釉薬を施した無文の碗で、いずれも底部のみである。白磁は、やや青味のある半陶明の釉薬を施したもので碗の底部との口縁部の破片である。時期は江戸時代初期から中期のものとみられる。(図版3)

瀬戸系陶磁器は、鍋蓋、小皿、急須蓋があるが、ほとんど現代のもので、若干2点だけ、底部を円盤状に盛り上げ、低い高台を心持ち作り出すものがある。他に天目茶碗があるが、江戸中期から現代のものであり、鉄釉は、光拓のない梨地肌のもので黒茶色および茶褐色を呈するものと陶明釉のかかるものがある。高台は円盤状のものと断面逆台形状のものを作り出すものの2種類がある。(図版3)

伊万里系の磁器は、主に上層より出土しており、現代のものである。やや古いものに網目文の染付茶碗が2点ある。

### 3. ま と め

調査地点が金森東遺跡、吉身西遺跡の接点になる所であるため、何等かの関連する遺構があるとみられたが、SD01以外は、いずれも新しく、中世以降の水田耕作によりかなり削平されている。SD01に関しては、5.0~6.0mと広い幅をもつ割に浅く、遺物をほとんど包含していないため、その性格については不明である。自然流路のような痕跡はなく、古墳の周濠、あるいは、墓域を画する環濠とも考えられる。SD02に関しては、古地割の字限図によると、「六反ヶ町」と「上灰原」の境界にあたる溝で、三津川より「上荒木」、「下荒木」の境を通り北流し、「中岩賀」、「下岩賀」の境界を通る水路である。三津川の引水関係の古文書によると江戸時代安永年間の資料があるが、これ以前の記録はない。当該地区の水路は三津川の北流（川）のものであり、この方法は河内地方の古代の開発に類似する特徴をもち三流の中で古く考えられるとされている。三津川に関しては、現在の所、赤野井地割を中心とした地を潤すために掘削された人工河川であろうとする説がとられているが、いつ頃開発されたのかは定かでない。金森遺跡で検出された建物群が埋没する中世初期に水田耕作における水利についても改造成が行なわれ、同時に条里の完成をみるとする考え方もあるが、<sup>①</sup>今回の調査では、条里の初限期を確定し得る資料がないため不明である。今後の周辺遺跡での調査で関連する遺構の検出が待たれるところである。

#### 注

- ① 岩崎 茂・畠本政美 「滋賀文化財だよりNo101」（財団法人滋賀県文化財保護協会 1985）
- ② 山崎秀二 「吉身西遺跡発掘調査報告」（『守山市文化財調査報告書第21冊』1986 守山市教育委員会）
- ③ 山崎秀二 「三津川遺跡調査報告」（『昭和50年度 滋賀県文化財調査年報』1977 滋賀県教育委員会）



第6図 周辺古地割図



調査前現地全景



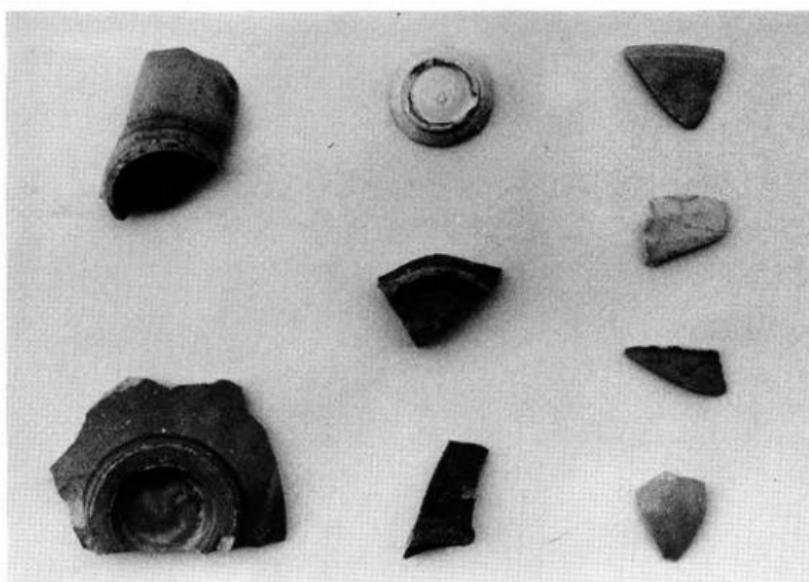
造構全景(南から)



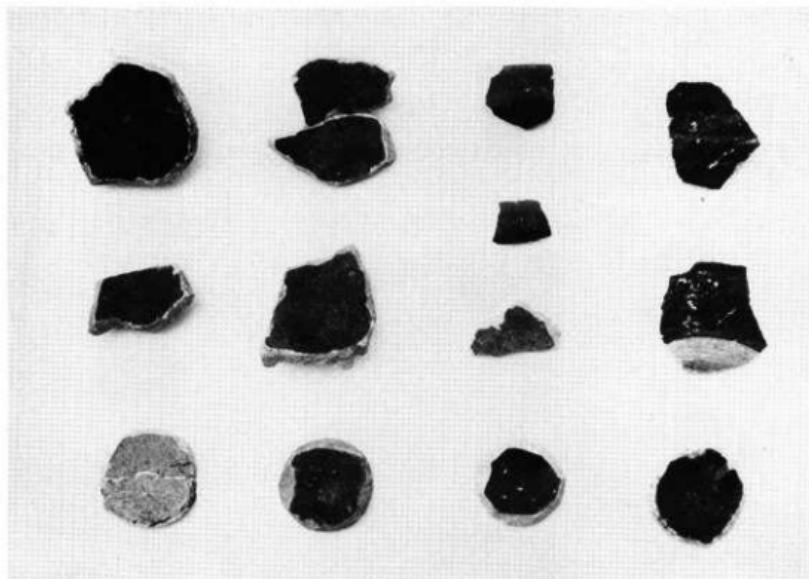
SD02(南から)



SD02埋跡



青磁・白磁碗



瀬戸・美濃焼系天目茶碗



信楽焼 鉢、甕



須恵器(古墳時代後期～奈良時代)

昭和63年3月

**県立守山高校屋内運動場増築に伴う  
金ヶ森東遺跡発掘調査報告書**

編集・発行 滋賀県教育委員会文化部文化財保護課  
大津市京町四丁目1番1号  
TEL(0775)24-1121

財団法人 滋賀県文化財保護協会  
大津市猪田南大庭町1732-2  
TEL(0775)48-9780・9781

印刷・製本 富川印刷株式会社  
大津市富士見台3番18号